

令和3年度 第1回
江東区地域福祉計画策定会議
会議録

令和3年4月13日

令和3年度 第1回江東区地域福祉計画策定会議

日時：令和3年4月13日（火）午後1時30分～午後3時20分
会場：江東区文化センター2階展示室

○次 第

1 開 会

2 議 題

(1) グループ討議

- ①福祉の課題及び課題解決に向けた方策について
- ②福祉の将来像、大切にしたい価値等について

(2) 発表

(3) 講評

(4) その他

3 配布資料

- 資料1 令和3年度江東区地域福祉計画策定会議委員名簿
- 資料2 グループ討議進行表
- 資料3 区の福祉課題と課題解決の方向性について（案）
- 資料4 意見一覧（福祉の将来像、大切にしたい価値等）

○委員(敬称略)

出席 18 名 欠席 1 名

	役職	氏名	所属団体	出欠	グループ
1	会長	長倉 真寿美	立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科教授	出席	—
2	副会長	岡田 哲郎	東京通信大学人間福祉学部助教	出席	—
3	委員	秋山 三郎	NPO 法人東京養育家庭の会川の手支部副支部長	出席	1
4	委員	飯塚 勝	江東区老人クラブ連合会会長	欠席	1
5	委員	伊藤 善彦	社会福祉法人江東楓の会理事長	出席	3
6	委員	稲見 晃一	江東区医師会理事	出席	4
7	委員	岩田 安正	青少年委員会会長	出席	2
8	委員	落合 香代子	一般社団法人 ママリングス代表理事	出席	4
9	委員	金山 見学	江東区民生・児童委員協議会北砂地区会長 江東区保護司会監事	出席	3
10	委員	河野 久忠	NPO 法人青少年自立援助センター理事長	出席	2
11	委員	杉浦 正人	社会福祉法人新栄会 王子事業所所長	出席	1
12	委員	田村 満子	NPO 法人こどもの発達療育研究所理事長	出席	2
13	委員	土屋 喜美子	江東区社会福祉協議会総務課認定調査係長	出席	3
14	委員	中垣 風見子	北砂西長寿サポートセンター管理者	出席	1
15	委員	宮崎 英則	ボランティア連絡会会長	出席	4
16	委員	吉野 義道	多世代交流の里 砂町よっちゃん家管理者	出席	2
17	委員	渡辺 恵司	大島連合町会会長	欠席	3
18	委員	中澤 孝至	公募委員	出席	1
19	委員	三宅 由美子	公募委員	出席	4

○事務局

	役職	氏名	備考
1	福祉部長	武越 信明	
2	福祉課長	梅村 英明	

○傍聴

なし

※注 原則は公開。ただし、今回は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて傍聴席を設けなかったため、傍聴なし。

1 開会

○**会長** これより令和3年度第1回江東区地域福祉計画策定会議を開会いたします。

委員の皆様には、ご多忙のところご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。本年度最初の会議でございますが、委員の変更等はなく、昨年度から引き続き同じメンバーで検討をお願いしたいと存じます。

傍聴についてですが、今回も前回と同様に、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、事務局と相談のうえ、傍聴席を設けていないことを報告させていただきます。次回以降の対応については、感染状況を見ながら、適宜判断して参りたいと存じます。

さて、本日の議題についてです。本日は、皆様に各グループに分かれて着席いただいておりますように、グループ討議形式で進めさせていただきたいと存じます。この理由としましては、限られたお時間の中で、できるだけ委員同士で意見交換をしていただき、議論を深めていただきたいということから、事務局と相談のうえ、このようにさせていただきました。

本日は、委員の皆様が重要だと考える課題や福祉のまちの将来像等について、各委員のお考えを積極的にお話しいただき、この場で共有いただければと存じます。本日はよろしくお願いいたします。それでは進行等について事務局より説明願います。

○**事務局** 本日はご出席いただき、ありがとうございます。説明に入る前に、何点かご連絡をさせていただきます。まず、本年度より、福祉部長の人事異動がありましたので、ご報告させていただきます。

○**福祉部長** (挨拶 省略)

○**事務局** 次に、資料の確認をお願いします。事前に送付したものご持参をお願いしておりましたが、不足等がありましたらお知らせ願います。

続きまして、本日の会議運営についてですが、先ほど長倉会長からもお話がありましたように、本日はグループ討議形式でご議論をいただきたいと存じます。普段の会議では中々できない、活発な意見交換の場となれば幸いです。それでは、本日の流れについて、説明させていただきます。

資料2をご覧ください。私の説明が終わりましたら、グループ内で自己紹介をした後に、進行役兼発表者を決めていただきます。なお、各グループに1名ずつ書記が入り、補佐をさせていただきます。役割が決まりましたら、進行役の方の進行により、グループ討議①「福祉の課題及び課題解決に向けた方策」に入っていただきます。

初めに、個人検討を5分程度していただきます。資料3を参考にして、区の福祉課題のうち最も重要だと考えるものをピンク色の付箋に記入していただきます。次に、その課題の解決の方策について緑色の付箋に記載していただきます。それが終わりましたら、15分を目途にグループ内で意見発表と意見交換を一人ずつ行っていただきます。皆様に記入いただいた付箋については、発表が終わるごとに、職員がホワイトボードに貼付いたします。その際、似ている意見は集約するなどの作業を行ってください。最後に、5分程度、グループ内で全体を通しての意見交換を行っていただきたく存じます。以上で討議①は終了となります。

10分の休憩を取ったのち、グループ討議②「福祉の将来像、大切にしたい価値観等」について検討していただきます。ここでも、まず5分を目安に個人検討をしていただきます。討議①の内容や、資料4を参考にして、福祉の将来像、大切にしたい価値に関するキーワードを黄色の付箋に記入していただきます。その後、グループ討議①と同様に、20分程度、グループ内で意見発表・意見交換を行っていただきます。最後に、討議のまとめとして、議論をおさらいし、将来像等に関するキーワードを、グループで1つから2つを目途に集約していただきたく存じます。

そこまで終わりましたら、続いて、発表者の方に各班の検討結果について5分程度で発表していただきます。グループ討議②の「グループで選んだキーワードやその説明」を中心に、グループ討議の内容をご紹介いただければと存じます。

最後に、副会長、会長から講評をいただき、本日の策定会議は終了となります。私の説明は以上です。

2 議事

○会長 お時間も限られておりますので、早速、グループ討議に入らせていただきたいと思います。

(1) グループ討議

- ①福祉の課題及び課題解決に向けた方策について
- ②福祉の将来像、大切にしたい価値等について
(グループごとの議題討議は省略)

(2) 発表

○会長 それでは第1グループから発表をお願い致します。

○第1グループ 第1グループの発表をさせていただきます。宜しくお願いします。

まず、課題の部分ですけれども、それぞれ結構バラバラで課題が上がってきていました。「制度の狭間への対応」ですとか。そういったところにはプロのナビゲーターを育成したり、運用したりするのが良いのではないかという話が出ました。

SNSとかで、なかなか地域、世間と関わりづらい人が関われるような場所を作ることも大事なのではないかということ。あとは情報ですね。「情報がとりにくい」ということ。一体どこにいったら良いのか。誰に相談したら良いのかということがわかりにくいので、こういうことのわかり易さということを作った方が良いのではないかということ。

あとは地域の繋がりですね。まずは顔を合わせてお互いを知ることが大事なんじゃないかという話もありました。

社会や地域の多様性への理解不足という部分では、教育も凄く大事なことなので、小さい頃から「福祉」ということを知っておくということが凄く大事なんじゃないかということがお話の中で出てきました。

地域社会の問題解決の能力を向上させるような取組も必要で、積極的に市民を活用するようなシステム作りも必要なのではないかというお話が出てきました。

みんなの中で出てきたのは、やはり「人材の活用と教育」の部分ではないかというところでした。「ボランティア」と一言でいうけれども、今までのボランティアの考え方は、無償でやるか、有償でもかなり低い値段でやるということが当たり前とされていたけれども、果たしてそういう考え方で続けていくことがいいんだろうか、という問題提起もありました。

2番目の将来像です。うちのグループでは、1番は「安心して暮らせる地域を作るのがいいね」というところに落ち着きました。自分が将来、歳をとった時とか、何かしら障害を持った時、そういうことに気が付いた時に、「ここで暮らしていいんだ」と思えることが一番大事だということが話し合われました。

その中で、もうちょっと福祉を当たり前にしていくことが大事なのではないかということで、やはり教育は凄く大事だということ、そういう人材育成が必要だということ、そういう場所を作るということも凄く大事だということが話し合われました。

あとは人材の活用の仕方ですね。さっきいったボランティアもそうだし、プロといわれる人達がより働きやすいように江東区で長く働けるように。そういった支援体制も必要なんじゃないかということが出ました。

あと、私は北砂で仕事をしているので、避難所の問題を凄く大事にしているんです。台風がこの間あった時も高齢者が避難をする場所がないということで多くの相談をいただいたので、避難所のこともあげておいたので、是非こういうことも一緒に話し合ったら良いと思いました。以上です。

○会長 それでは第2グループ、お願い致します。

○第2グループ 第2グループでは、一つは地域の見守りの早期の気づきが中々難しい時代になってきているということ、コミュニティの希薄化とか核家族化、そういったものが大きな問題ではないかということ、やっぱり相談できる場所を明確にしていく必要がある、というご意見が一つありました。複合的な課題や制度の狭間に落ちてしまっているような、そういう存在への支援というのもしっかり考えていく必要があるというご意見がありました。

課題として、伴走型アウトリーチ。ここは引きこもりの問題も含めて、孤立化につながっていく部分なので、ここは力を入れるべき。アウトリーチも幅が広いので、分野別でのスキルを持った人材育成というのが重要と思っています。

生活困窮者に対する支援の在り方。総合相談窓口ができてしまって、何でもそこへ相談しなくちゃいけないというような状況になってきているので、やはり一時的に相談に乗る方の相談のスキル、どこにつなげられるか。ここも一つ課題であって、本当に「福祉」という領域だけだと、どうしても狭くなってしまうので、かなり幅を広げたところで相談を受けられる。プラス、ネットワークの部分が一番難しいと思うんですけれども、やっぱりちゃんとつなげる先と顔の見える関係をどう作れるか。ここは、区とかの協力も必要になってくるという意見が出ています。

誰もが積極的に社会に関わるような仕組というのが必要で、皆さん想いはあっても、仕事とか日常が忙しくてなかなか関わりづらい状況があって、地域交流ができていくような上手い時間の作り方という点。特に今日お集まりの方は現場を持っていたりするので、現場の事務量が増えてしまってきているので、なかなかそれで忙殺されてしまうと動きがとれないという向きもあるので、そういったところは、状況により大分動きが変わってくるかなというご意見がありました。

あと、多くの人々が交流できる場所というのは必要だということは全般的に出ています。身近に集える場所が不足していて、やはり繋がりが持てるということが重要。多くの世代が集えるような場所。チームでもそういう場を運営している方のご意見としてありまして、それはかなり有効で、ただそこに関する評価みたいなものが今のところ少なく、やっちはいるけど、その効果だったりとか、そういうものを活用される課題と後に続いて他の地域でもやろうということにはなかなかつながっていかない、というご意見がありました。

あとはそういった方々のボランティアの確保、育成方法、コーディネート仕組。最初に始めようと思ったリーダーがいなくなってしまうとそこで途切れてしまうケースが多いので、二代目をどう育成していくのか。それを支える仕組みを区を挙げて作っていく必要があるのではないかと、というご意見がありました。

最終的に福祉の将来像、大切にしたい価値という部分は、一人ひとりの顔が見える、そういう関係を築けるような社会。一人ひとりが生き生きと生活して、自分の夢を実現できたり、そういう夢を守られながら、障害があろうと何だろうと生きていけるような、そういう環境というのができ上がる地域にしていければという、そういうところで話はまとまりました。以上になります。

○会長 それでは第3グループ、お願いします。

○第3グループ 宜しく申し上げます。第3グループは3名で話し合いをさせていただきました。

①課題では、まず、共生社会の意識の向上ということ。それぞれ住民の方の意識の向上がまず必要じゃないか、という意見が出たんですけれども、知る機会ができていないというところでは区報とかホームページとかそういったものだけでなく、もっと区民への学習会とか、交流会とか、団体同士の意見交換。今日いらっしゃっている方も自分の専門分野では情報もキャッチできていたりとかするけれども、自分の分野以外の情報はなかなかキャッチが難しかったり、そういった知識もないというところもあって、そういった住民への働きかけができるような交流の場だったり、学習の場がもっとあっても良い、という意見が出ました。

それから、場づくりということで、身近にもっと区民とか住民が集まれる場があっても良いということ。そういう場があることで、身近なところで身近な人たちに相談ができたりすると、もっと安心につながっていくのではないかとということで、そういった集いの場を生かしていくには、今ちょっと衰退化しつつある地縁組織の町会であったり、自治会であったり、既存のものをもっと活性化して行って、そういった身近な場を相談できるような場につなげていけるともっと良いのではないかと、という意見がでました。

住民にとって福祉とは、困った時に身近に相談にいかけて、相談にいったらその相談先からサービスの方につながって助けてもらえる。そういったものが安心に繋がるだろうということで“身近な”というキーワードが出たところです。

これは私の意見もあるんですが、江東区内にはそういった福祉に熱い想いを持っている方ですとか、もう既に福祉の活動をされている団体ですとか、色々な機関の方もそうですけれども、そういった方々もたくさんいたり、アンケートに出ていたボランティアに興味はあるけれどもやったことがない、やる方法がわからないとか、そういった方がたくさんいらして、そういった方々を十分生かしきれていないですとか、そういった方々をうまくつなげれば物凄い大きな力になって福祉が前進していくのではないかとということがこのグループでも出ておりました。

先程の啓発にも繋がるんですけれども、資源の活用ですとか、ネットワークを構築することが大切だという意見が出ております。

相談窓口のところなんですけれども、やっぱり、制度の狭間でなかなかつながりきれない、という問題はたくさんあるという意見がやっぱり出てきて、区がやっぱり縦割りのところでどこにも当てはまらない方がいらっしゃって、そういった方に寄り添って、コーディネートしてあげる。それはインフォーマルな部分もそうなんですけれども、行政内部でもインフォーマルサービスの伴走支援といいますか、一緒にサービスを探していくような、そんなコーディネートができる総合窓口があればとてもいいんですけども、そこまでいかなくても専門職といいますか、もちろん外部の社協とかもやっていらっしゃると思うんですけれども、そういうところにもいて、区にもいたらとても良いという意見もあって、そういった諸々をこの計画が横串を刺すということであれば、ぜひ思い切った組織の見直しですとか、あと今これがどうにかなるかかわからないですけれども、区の方は3年～4年で異動になってしまうというのがあって、折角、専門のところまで詳しくなれた方が「さあ、これからだ」という時に異動してしまう。そうすると次の方とまた一からというところが非常にもったいない、というご意見がグループから出まして、是非その辺も含めて思い切った組織の見直しを区でやっていただけたら、それに他の団体とかも追従して福祉のまちづくりができたらいいなという意見がグループでも出ておりました。

2番の将来像です。大きくいいますと、人材育成と繋がりを作る、というところが出ております。福祉の人材育成、福祉マインドの醸成というところでは、幼少期、小学校、中学校などの学校教育に取り入れていくのが一番大切だというのが3グループでも出ておまして、是非取り入

れていただきたいところです。それからつながり作り、これに尽きるなど。この言葉に尽きるなというのが第3グループで出ております。身近な相談もそうですけれども、区と行政、区民、住民それから団体、全てつなげればこの計画は上手くいくんじゃないか。ただ、その具現化が非常に難しい。というところではあるんですけれども、そこが上手く計画につながっていくといいな、という意見が出ました。第3グループは以上です。

○会長 それでは、第4グループ、お願いします。

○第4グループ 第4グループを発表させていただきます。宜しくお願い致します。私達は「住みたい町、住み慣れたまちで安心安全に」というところと、「生きやすいまち、生きがいのあるまち」、というところをまずは福祉の将来像のトップに持って参りました。

江東区は今の段階でも8割、9割の人が住み続けたい。というようなまちです。でも将来にも住み続けたい、生きがいのあるまちというものを継続してもらいたいと思っております。その中で重要なことは、私達区民がカチカチしていない。カチカチしないって何かというと、まずは最初の課題のところであがったんですけれども、皆、人権をきちんと認識する、認め合う、そして多様性ですね。これから外国人も増えてくるかと思えます。そういう多様性も認め合うというところが一番重要ではないかというところ。

そして、大きな課題として、最初の段階で、三点挙がりました。まず、ボランティアの育成とコーディネートですね、そういうところが必要ではないかというところを議論致しました。例えば、わかりやすい説明や活動の場を作るという課題の解決策の一つでありますし、福祉人材、ボランティアっていったい何なんだろう、というところをキチンと定義をする。そしてボランティアに対してインセンティブなどもきちんと設定をするということが必要ではないか、というお話が上がりました。

2番目の課題としては、身近に集える場が不足しているのではないか。これは民間の区民が集まる場ということもありますし、あと専門家が集まる場ということもあります。私達のグループの中では、キーワードとして、インフォーマルとフォーマルのコラボレーションがこれから必要ではないかということが出ました。当然、福祉というのは専門家。企業であったり、外部であったり、そういう人達のネットワークであったり、その方達が相談体制をきちんと充実させて作ることが大きく必要なところかと思えます。ただし、地域ネットワークとしては、インフォーマルなところをもっともっと取り入れたらどうだ、という話の中で出ました。これは主にボランティアというところになるかもしれませんが、江東区はそのボランティアの活動という部分がまだちょっと弱いんじゃないかというお話もありました。そしてそのボランティアに対しての情報の提供の仕方、これは場を作るということがあるんですけれども、ICTを使って効率的に仕組作りをすることが必要だよなというところがありました。また、一つのやり方としてボランティアを集める時にボランティアの江東区の資格制度。「このボランティアの講習を受けましたよ」みたいなボランティア登録カードをもっと上手く活用することも一つの良い方法ではないかということも挙がりました。以上が第4グループの議論の内容になります。ありがとうございました。

○会長 はい、ありがとうございました。皆さん活発にご議論いただいて、非常に様々なご意見を出していただきました。それではまず、副会長の方から全体のまとめを含めて講評をいただいて、その後に全体を通してのお話を私の方からさせていただきたいと思えます。副会長、宜しくお願い致します。

(3) 講評

○副会長 皆さん、活発なご議論大変お疲れ様でした。私の方からは、講評といいますか感想ということで、5分程お時間をいただきます。

まず、一つ注目していただきたいのが、グループ進行表の討議のまとめのところにグループで重要と考える将来像や価値を1~2個程度で決めて欲しいというのが事務局からのオーダーだったのですが、なかなか事務局の思いどおりにはならなかったかなと思います。ただ、これで良かったなという実感を持っています。

といいますのも、各グループで皆様おっしゃっていましたが、こんなに想いや考えを持っていらっしゃる仲間がいるんだなって。そこを実感できたところかなと。どの班も休憩を取らず、粘って粘ってストーリーを紡ぎ出して、そしてその中で共通するキーワードですとか、また、まとめられない違いというのが出てきたわけで、その辺りが人権とか多様性ですとか。やっぱりこれまではがっつり地域に関わる人で地域づくりをやってきたんですが、そうではない、関わりづらい人達でコミュニティを作ること。そしてそこにフォーマルな専門職や縦割りになりがちだった行政や、それで一丸となってその地域を作っていくこと。そんなところが出てきましたので、是非、各グループの意見を丁寧にまとめていくことが、今後の計画作りにそのままつながっていくところだと思います。各グループに書記の方々がいらっしゃったので、頑張ってくださいと思います。

私も皆さんの議論を聞きながら、改めて地域福祉、それが何だろうかということを考える時間でもありました。私は長倉会長と同じ師匠を持っていて、亡くなった森本佳樹先生という方がずっと江東区に関わっていました。

先生にずっと習ってきたことは、いつしか地域という場からバラバラに人や仕組みが離れていってしまった。それを再び地域という場に結わえ直していくこと。また、いつしか専門職が何故か福祉をやるということになってしまったこと。普通の人々が作っていく。そういうやり方に帰っていくこと。私の師匠は地域福祉の地は「地酒の地」といっていました。どう意味かという、地酒というのは、その土地の人、米、技が三位一体で折り合って作られる。たまに不味いお酒もできるんですがそれも味だ。つまり、福祉はそういう地域の歴史や風土、人々と共に作り上げていく個性的なものなんだから、もっと楽しく作ろう。と話していました。そんなことを私も自分の価値や原点を思い返す時間にもなりました。皆さんの価値や原点、大事なものとして計画に結びついていけば良いなと思いました。あとはこの江東区のたくさんの人と結び合って計画を作り上げていけば良いなと思いました。以上、二点の感想でした。ありがとうございました。

○会長 副会長、ありがとうございました。それでは私の方から感想を述べさせていただきます。

まず、印象としては、皆さん本当に活発にご議論されていたなと思います。地域の中で様々な活動をされている方達に地域福祉計画の策定に関わっていただきたいということで、区の方で色々お考えになって様々な方をお選びなった結果だと思っています。

やはり、これまで江東区に地域福祉計画がなかったというのが、実は私は地域福祉活動計画を社協さんでお作りになっているのを先程出ました師匠の森本佳樹先生から引き継いで会長をやっておりますけれども、社協さんは地域の方々からは非常に身近な存在ですので、地域福祉活動計画があって、社協さんの方で様々な活動をしていくということはもちろん良いことなんですけれども、大元の区の方で地域福祉計画という大きなものがある、その中でどういうふうに区の中で暮らしている人達が生活していきたいと思っているのか。それをくみ取って計画にしていって、それを実践していくということが非常に大事。計画は立てれば良いのではなくて、どういうことが問題で、どういう方向性で区の福祉を発展させていくのか、というのが大事なんですね。そのための今日やっていただいたような話し合い、色々な人に集まっていただいて「こういうことが

大事だよね」、「こういうふうになりたいよね」ということを計画に落とし込んでいくということが非常に大事であり、いわゆる手段なんですね。計画というのは作ればいいというものではない。これをどうやって使っていくかということが大事です。

今回は第1期の地域福祉計画、初めての計画ですので、どちらかという福祉に明るい方達においでいただいてこういう形になっておりますけれども、最終的には区内の方達が色々なところでこういった話し合いをして、それこそ年齢とか性別、そういうことに関わりなく、色々な人達に参加していただいて、「どういう町にしたいか」、「どういう話をしたいか」ということを話し合っていて、そして計画に上げて実践していく、というようなことのベースになるのが今日の作業だったと思います。それを今後も皆さんのお力を借りながらそれを実現していきたいなと思っておりますので、是非皆さんまた区の方の活動に積極的に参加していただいて、今日やってきたことをどんどん広げていくお力添えをいただければいいなと思っておりました。結局、困りごとがある人がどういうところにいけば相談して解決できるのかということで色々出ていましたけれども、人材活用や教育とか、誰かがいなくなってしまうとシステムが崩れるのではなくて、やはりどんどんつながっていくような仕組み作りをしていく。

それからもう一つ、困っていることが自分自身でわかっていない方がいらっしゃいます。実は専門職から見れば、それから福祉に詳しい方から見れば「あなた完全に助けが必要ですから」という方が困っていると思っていない。だから色々な事件になるようなことが起こっているわけです。家庭内でのこととか。色々なことが出てくるわけですよ。ですから、そういう人達にアウトリーチしていくという仕組みを作っていくかなければいけないということもありますので、皆さんから出てきたことを有難く受け止めて、地域福祉計画の方に反映させていければと思います。

今日は第1回でしたので、こちらもバタバタしたところがあつて、皆さんどういふふうにしたらよいかのわかりづらかったという反省点はありますが、それでもとても良いご意見をたくさん頂戴しましたので、これを計画の中にしっかり入れて、そして区の方でも私や岡田先生もお手伝いをしながら実現に向けていきたいと思っております。その第一歩ということでご協力いただいて本当にありがとうございました。良いご意見をいただきましたありがとうございました。

それでは最後に、その他として、事務局からご連絡がありましたら、宜しくお願い致します。

(4) その他

○事務局 皆様、本日は長時間にわたりまして、活発なご意見を交わしていただきまして誠にありがとうございました。事務局より二点ほどご連絡をさせていただきたいと存じます。

まず、一点目が次回の会議でございます。次回は5月31日午後1時30分から予定しております。ご出席の程宜しくお願い致します。また次回の会議におきましては、計画の骨子を決定したいと考えております。本日、討議②でお話をいただきました将来像や大切にしたい価値などを基に基本理念等についてご議論いただきたいと考えております。

二点目でございます。今回についても意見シートのご提出をお願いしたいと存じます。ご意見ご質問等がございましたら、4月23日までに事務局までご提出をいただければと思います。

3 閉会

○会長 はい、ありがとうございました。それでは以上をもちまして令和3年度第1回江東区地域福祉計画策定会議を終了致します。長時間にわたり活発なご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。